

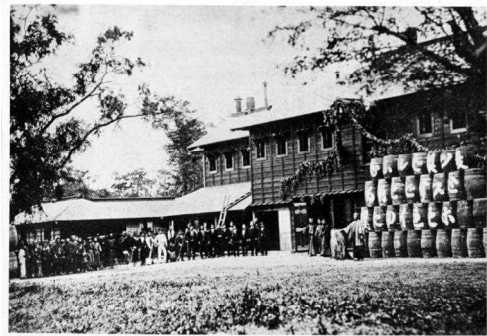
## 北海道立文書館展示資料解説

### 開拓使の官営工場

開拓使では東京、七重、札幌、根室などに官園を設け、寒冷地である北海道に適した野菜や果樹の栽培、家畜の飼育に取り組んでいました。こうして収穫されるようになった作物を加工する官営工場が明治8～9年頃に多く建てられ、開拓使の時期には札幌製作場構内に設けられた木工所や製鉄所、製糸所などと合わせ、40近くの工場がありました。味噌、醤油醸造や木工所など道内需給のためのものから、麦酒、葡萄酒、生糸など移輸出向の製品にまで力をいれていました。



▲開拓使工業局



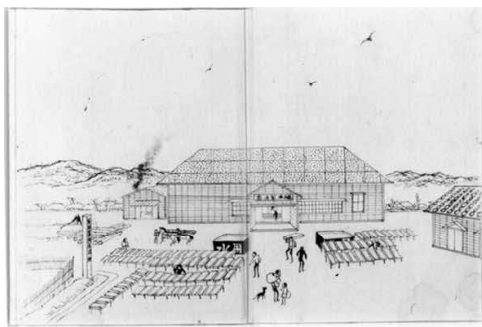
▲麦酒醸造所(札幌)



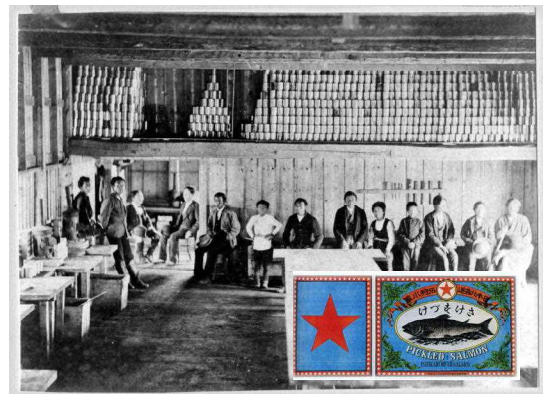
▲札幌製糸所内部



▲『開拓使本庁蚕織報文』(明治11年)

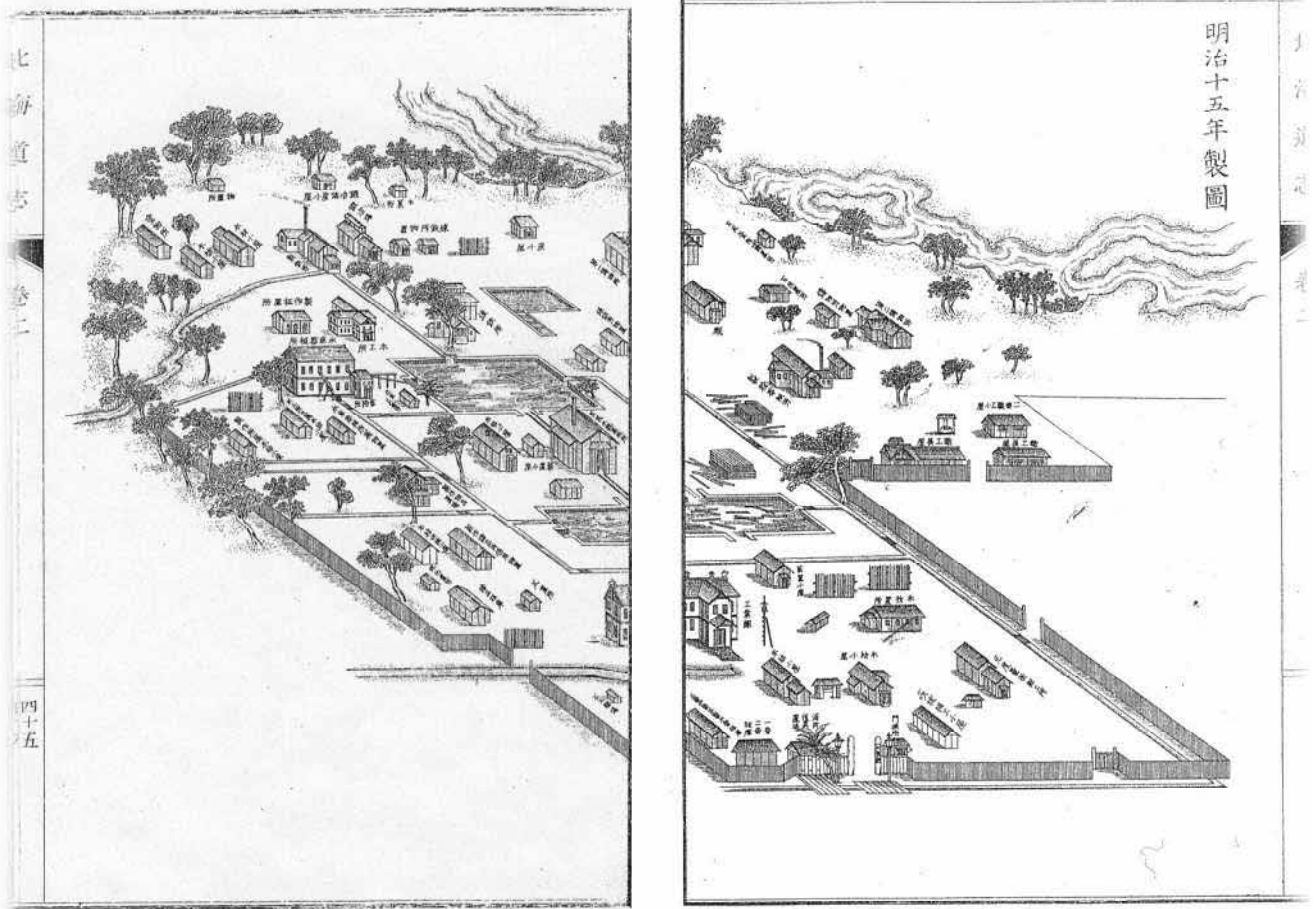


▲燐寸製造所(函館)



▲石狩鮭缶詰所内部と鮭酢漬缶詰のラベル

(2019年9月末まで赤れんが庁舎内にあった文書館展示室の解説です。)



▲「札幌工業課図」(明治十五年製図)(『北海道志』所収) -札幌製作場構内図-

水車器械所、木工所、製粉器械所、鍊鉄所、鍛冶場やさまざまな原材料置き場が建ち並んでいる。



▲さまざまな製品に貼られたラベル類

りんご／羊肉缶詰(『化粧紙書類』簿書4467)絹織物／ます缶詰／麦酒(『局長決判書類』簿書10066)